



広がれ！「林金次語録」

今年も正月一日は、山梨県甲州市、大菩薩峠の登り口近くにある「裂石温泉雲峰荘」に一泊して、温泉にゆつくりと浸ってくつろいだ。車で中央高速の勝沼ICで下りて、青梅街道に入り、急な坂を15分ほど上ったところにある。14室ほどの小さな温泉旅館であるが、地の物をしっかりと味わうことのできる食事と、PH9・9の強アルカリ性の泉質が魅力だ▼この雲峰荘の最大の魅力は、一昨年1月に89歳で亡くなられた前社長・林金次さん独自の生き方・哲学であり、林さんの生き方等に魅かれ、林さんと話しをするのが楽しみで来る客も多かった。林さんは起業と倒産、再建を繰り返し、波乱万丈の人生を歩み、49歳の時、1979年に雲峰荘を開業している。そして(中里) 介山記念館、田植えや稲刈りの場も提供する洗心道場も運営・管理してきた▼そうした生き様の中で、人が集まると「もっと、もっとで人間は苦しんでいる」「いらんいらんが人を幸せにする」「自分で考えたことはダメ。苦しむだけ。世の中に使われて生きる」「必要な物はいっぱい転がっている。拾い物で十分」「自分が作るのではなく、自分は稲にイモに使ってもらっている」等々と、その時の思いをぽつぽつと語ってきた。その話を聞き捨てにするのがもったいなく、10年前後にわたってメモを書き溜め、これを整理して「林金次語録 基本を尊ぶ」おじいちゃんが君たちに伝えたいこと」の小冊子にし、林さんの法事に合わせて、ごく身近な方に配らせていただいた▼そうしたところが、これを読んだ静岡の友人Nさんがボランティアで、昨年、電子書籍のKindle、楽天Koboでも無料で読むことができるようにしてくれた。まことにありがたい限りで、混迷がさらに深まる昨今、林さんの物事の本質、天地の理を見事にとらえた「言葉」が綿毛となって、多くの人に広がる年になることを期待している。

(土着菌)